

# 人権コラム 心、豊かに

## ◆ 日本は「単一民族」？

「トナカイ」、「ラッコ」、「シシャモ」…これらの言葉は全て＜アイヌ語＞が語源と言われています。アイヌ語は、北海道や東北地方北部等の先住民族であるアイヌの人々が使用する独自の言語です。

アイヌの人々は、アイヌ語の他にも口承文学（ユーカラ）、民族衣装、伝統的儀式など、独自の文化や伝統を受け継いできました。しかし、明治政府の「同化政策」によって、日本語の使用が強制され、狩猟などの独自の習慣や風習を禁止された上、保有していた土地の所有さえも認められませんでした。その結果、アイヌの人々は民族の誇りや尊厳だけでなく、生活の基盤を奪われ貧困にあえぎ、さらには様々な差別や偏見を受けました。

アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される社会の実現に向けた動きに変化が見え始めたのは、平成9年。この年『アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律』（アイヌ文化振興法）が施行されました。また、平成19年には『先住民族の権利に関する国際連合宣言』が国連で採択され、わが国では平成20年に『アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議』が国会で採択されました。

政府が公式にアイヌ民族を「先住民族」と認めたことを契機に、その翌年には「アイヌ政策推進会議」が発足し、失われていった独自の文化や伝統の継承と国民のアイヌに対する正しい理解と知識の共有に向けた政策が進められました。

しかし、国が平成28年に公表した、アイヌ民族を対象とした意識調査結果によると、72.1%もの人が「差別や偏見がある」と回答し、今もなお差別や偏見が残る現実が浮き彫りになりました。

かつて、ある総理大臣が「日本は単一民族」と発言したことがありましたが、日本の歴史をさかのぼると異なるいくつかの民族に分類されます。差別や偏見をなくすために肝要なことは、日本は単一民族ではなく、私たちのルーツは多様であるという事実とその歴史や文化を理解することではないでしょうか。